

上 京

史蹟と文化



美を巡る

京都佛立ミュージアム（京都市上京区御前通一条上ル）

「千年の都 京都の町で生きた仏教に出会う」をテーマに、2012（平成24年）7月、京都北野に誕生した「京都佛立ミュージアム」。仏像、救いと教え、通夜、葬儀、法要、お盆……。神社仏閣が点在する京都で仏教は比較的身近な存在であるが、「生きた仏教」とはどのようなものなのか。

一歩足を踏み入れ、館内で過ごしていると、ミュージアム自らが仏教と触れ合う機会を創り出している、との印象を受けた。難しい漢字には全てルビ（ふり仮名）が打たれている展示パネル、無料開放されている広く明るいロビー、車いすや子供連れでも安心して使用できる高機能トイレや休憩所。また、地元北野とのコミュニティ活動の一環として企画展示されている北野界隈の大ジオリマ等、親しみやすさ、おもてなしの心……。いろんな人にどんどんここに来てほしい、との思いが伝わってきた。

仏教施設としてだけでなく、地域の人々に有効活用して頂けるよう館内の柱の多くはフレキシブルに対応し外しができるようになっており、それが様々なイベントに対応したレイアウトを可能にしているとのこと。このように仏教をテーマにしながら、万人に愛されるよう臨機応変に対応できる施設が誕生した背景は何だったのか。

時は江戸・幕末。勤王攘夷（きんのうじようひ）の思想が台頭した動乱の世。仏教は政治

や経済に利用され、僧侶は高貴な存在として祭り上げられ、仏教本来の使命である「衆生救済（しゆじゆうきうさい）」とはかけ離れた存在になっていたのがある。

そのような時、この京都で危機感を抱き、仏教を民衆の手に取り戻し、本来の使命を果たすべく奔走した一人の僧侶がいた。後に「幕末・維新の仏教改革者」と呼ばれる「長松清風（ながまつせいふう）」である。清風は京都の裕福な商家に生まれ、幼いころから芸術家、学識者としての才能を発揮していたが、母親の死を機に仏教の教えに興味を抱く。日蓮を祖師とする本門法華宗で出家した後、本門佛立講を開いたのである。

清風は、死後の世界ではなく、現在生きている人の中で息づくものが本来の仏教であるとして、「生きた仏教」を体現しながら人々に伝え続けてきた。「京都佛立ミュージアム」を運営する本門佛立宗は、清風が開いた本門佛立講がベースになっており、京都佛立ミュージアムは、生涯本物の仏教を追求した長松清風を紹介しながら、彼が体現した「生きた仏教」と、その必要性、重要性を多くの人々に伝えることを目的に開設された施設なのである。

そのような歴史背景を知ると、このミュージアムのコンセプトがよく理解できる。今生きている人々に理解され、より楽しく、親しみやすく、本来の仏教に触れてほしい……。そんな願いや目的が伝わってくる。

京都佛立ミュージアムが位置するのは、昭和33年（1958）に廃止



外 観

された京福電鉄「北野駅」の跡地。「本門佛立宗 第一佛立会館」として建設され、それからおよそ半世紀後、老朽化による建て替えが行われ、「京都佛立ミュージアム」としてオープンした。建て替えが検討された2011年に、東日本大震災が起こったことで、宗務本庁のためだけの建物ではなく、社会に貢献できる建物をつくらうという結論に至ったという。非常時には防災の拠点となる施設としても活用できるそつだ。

この施設の中には国宝とされるような仏像や絵画、また美しい庭園や伽藍なども無い。「生きた仏教」との教えを通じて、今を生きる人々に、その指針や文化を発信している。それは、長松清風のより多くの人に仏教本来のエッセンスを知ってもらいたいという思いに通じているのであろう。

その具現化のひとつとして、京都佛立ミュージアムでは各テーマに沿った企画展の他、一般参加型公開講座「テラコヤスコラ」を年に数回開催している。仏教が日々の暮らしのヒントとなるよう意趣を凝らし、21世紀の寺子屋を目指しているとの事。興味深いことにその講演内容で、「福祉×仏教」や「SDGs×仏教」など、社会情勢や暮らしに密着した仏教の教えをテーマとしている。「宮沢賢治×仏教」では、文学と仏教の接点を伝え、その奥深さに大変好評を得たらしく、後日、私自身もYouTubeで一般公開されている動画を拝見し感銘を受けた。

また、構内では毎月25日に「ほんもんさんアート市」という手作り市



展示パネル

を開催し、地域活性化の拠点として賑いを見せているだけでなく、さらに「普段着で聴ける100万人のクラシックライブ」という解説付のミニライブを定期開催し、より身近にクラシックを感じる事ができる場も創出している。このようなミュージアムなら、「来場者の多くは、地域の方や一般の方で、仏教関係以外の方が多い」という事も頷ける。

10月9日まで開催されている企画展、「高祖日蓮大士ご降誕八百年慶讃 本山大法要奉修記念『大宥清寺展』―京都北野の知られざる名刹―」では、日蓮門下関西圏最古の寺院「宥清寺」にスポットを当て、長松清風を迎え入れた歴史と、あまり知られていない北野の名刹を紹介している。少しでも興味のある方には一見の価値がある。

京都佛立ミュージアムにおけるこれらの企画展や様々なイベント等は全て、隣接する宥清寺の僧侶らが企画運営しているという点も興味深い。だからこそ「生きた仏教」の教えがこちらに見えているのであろう。

戦争、感染症、気候変動、環境問題、差別格差、若年層の自殺…。現代は幕末に匹敵するか、それ以上に混沌とした時代。生きた仏教を体現した清風の志と情熱を受け継ぎ、これからも多くの方々と共に、心豊かな世界への扉を開き、その階段を上ってほしいと願う。

最後になったが、本投稿に際して「今後も仏教の本質を、パンチとトンチの効いた企画で伝え、多くの方に触れていただきたい。神社仏閣が多い京都ですが、仏教の教えを学んでから京都観光に出かけるのも良いですよ。ぜひお気軽にお立ち寄りください」との言葉とともに懇切丁寧に解説して頂いた京都佛立ミュージアム 松本現薫主任に心より御礼を申し上げます。

(be 京都館長：岡元麻有)

町名・地名は歴史のタイムカプセル

京都産業大学 日本文化研究所

上席特別客員研究員 小嶋 一郎

今回は、二町に絞り、その町内

ゆかりの代々の当主に思いを馳せてみたいと思います。「商い」と「芸能」というジャンルこそ異なりますが、歴代のリーダー達の活躍と苦勞が偲ばれる町名をご案内しましょう。

★「茶屋町」小川通下長者町下ル

京都府庁(藪之内町)の西隣「農林水産省 近畿農政局」を始めとする官庁街の大きな建物の集中する辺りが「茶屋町」です。公儀呉服師を世襲した京都の豪商「茶屋四郎次郎」の邸宅があったことが



茶屋四郎次郎邸址 石標

名前の由来となっています。

茶屋邸は、室町時代の後期である大永年間(1521-27)に下京(現在は中京区)の新町六角下ル百足屋町に建てられ、当時、中島四郎左衛門明延が室町幕府13代將軍足利義輝に、その邸内で茶を呈したことから「茶屋」と名乗るようになったと言われています。茶屋(中島)家が上京に屋敷を構えたのは、初代清延の時代、天正18年(1590)に豊臣秀吉が北条氏を攻め天下人となり、徳川家康が関八州を領した頃とされています。下京の茶屋邸に加え上京にも邸宅を構えることになったのは、それだけ商売が順調であったことの証とも見ることが出来ます。家康が上洛した際の居館として、下京の茶屋邸と共に、上京の屋敷でも準備をしたため、武將同士の緊

張が高まった時世、襲撃のリスクを分散する狙いもあったように私には思えます。下京の茶屋邸は宝永5年(1708)の火災(宝永の大火)で消失し、その後は再建されなかったようです。

茶屋家は、明延の子の清延の代となり、「茶屋四郎次郎」と当主が代々名乗るようになりました。ちなみに「四郎次郎」とは四郎の次男という意味で、清延が明延の次男であったことが窺えます。その後、代々の当主が「茶屋四郎次郎」を名乗り、受け継いでいきました。茶屋(中島)家は、松平家に仕えていた武士であったとも言われ、元は三河武士で、先祖は小笠原氏という武田氏と同じ清和源氏とも伝えられます。

一方では都の商人であったとも伝わり、ルーツははっきりとはしないのですが、徳川家康の時代から、最初は武芸の面で、後には金銭・外交の面でサポートし、また貿易商として將軍家代々の呉服所(呉服商)として商いの幅を拡げていきます。

家族葬は公益社

ご相談ください。
ご予算に応じた葬儀を提案します。



小さくて温かい
お葬式と好評です



0120-004-200

ご葬儀お申込み 無料相談 24時間受付

詳しくはホームページで

ブライトホール



■茶屋四郎次郎 初代 清延きよのぶ

商人としての活躍もさることながら、岡崎時代の家康が、浜松で武田軍に完敗した際（三方ヶ原の合戦）にも従軍していたともいわれ、「近侍きんじ五十三回」と伝わります。本能寺の変の後、家康が「伊賀越え」をせねばならなかった時には、商人としての金銭面での感覚や培ったネットワーク（交流関係）に加え、武士として幾たびの合戦での経験が、非常に役立ったはずです。「伊賀越え」は、茶屋四郎次郎清延無くして、成功しなかったといっても過言ではないでしょう。

豊臣秀吉が天下人であった頃から、秀吉の朱印状を得て、安南方面との貿易（朱印船貿易）に着手、その後糸割符制が始まると、更に貿易商としての才覚を存分にふるい、やがて「茶屋家」は京都三長者（後藤家・角倉家・茶屋家）の一家にその名を馳せることになりました。

■茶屋四郎次郎 二代 清忠きよただ

父、清延と同じように、江戸幕府を開いたばかりの家康に仕え、

幕府の呉服を預かる商人達のキーマンとして活躍します。京の都のみならず、伏見、大坂、奈良、堺等の町人を束ね、町方の取締りをする「総町頭役」を命じられました。今でいうなら、商工会議所の会頭といった感じでしょうか。

■茶屋四郎次郎 三代 清次きよつぐ

父（清延）、兄（清忠）と同じく、家康の庇護を受け、安南貿易を拡大し、当時、堺の商人達が独占していた白糸（中国の生糸）の輸入販売を拡大しました。ここに（白）糸割符の特権を得たのです。大企業が独占する中、急成長中のベンチャー企業が、シェアの牙城を崩したに等しいことでした。



本能寺蔵 茶屋四郎次郎（清次）坐像
画像提供：大本山 本能寺

■茶屋四郎次郎 四代 道澄・延宗どうしやう・えんそう

寛永12年（1635）異国渡海禁

令が発せられると共に、貿易事業は打撃を受けました。鎖国の風潮と共に、茶屋家のグローバルビジネス戦略は、転換点を迎えたのです。

■茶屋四郎次郎 十代 延因えんいん

寛政12年（1800）幕府納入呉服物の価格が問題となり、呉服御用差し留めとなりました。つまり幕府との呉服ビジネスが行き詰まってしまったのです。

★「観世町」大宮通今出川上ル

西陣の織物産業のコアなエリアの中に位置する「観世町」。町名は「能楽（猿楽）」で有名な「観世流」に由来しています。

室町時代に能楽を大成した結崎三郎清次（観阿弥）、元清（世阿弥）父子が、室町幕府三代將軍足利義満から拝領した地と伝わるのがここ観世町です。西陣中央小学校内に現在も鎮座する観世稲荷社（参拝には事前に小学校の許可が必要）、その傍らにある「観世井」と称する井戸の水面が常に波動し水紋を描いていたところから、「観世水」と呼ばれる紋様が生まれま

HOSOO

HOSOO FLAGSHIP STORE

〒604-8173 京都市中京区柿本町 412
TEL 075-221-8888 10:30-18:00（祝日を除く）
www.hosoo.co.jp



もともと観世の発祥は、大和国の結崎（奈良県磯城郡川西町）で、大和猿樂四座の一流として、興福寺や春日大社に奉仕していました。観阿弥・世阿弥親子が、京のいまま新熊野神社（京都市東山区）での猿樂奉納の際、将軍足利義満に気に入られ、以降、足利將軍家に仕えるようになったのです。

■観世座（結崎座） 初世 清次きよつぐ

（觀阿彌）

名を「観世」とあらため、後に「観世大夫」・「観阿弥」と呼ばれるようになりました。その名の由来は「観世音菩薩（くわんぜおんぼさつ）」ともいう）であり、観音菩薩は、救済に向く時に、その姿を変え



觀世稻荷社 駒札

ることから、猿楽の役者としては様々な役どころを演じることとなり、まさに打ってつけの命名と言えるのではないだろうか。清次の「観世」がやがて、流派の名前「観世流」となります。

■観世座（結崎座）二世 元清もときよ

（世阿弥）

將軍、足利義滿に最も寵愛されたのが、元清です。幼少期には「藤若」「鬼夜叉」と呼ばれていたとも。一般に「世阿弥」として、世に知られています。

いまくまの
新熊野神社で、

れたのは、まだ少年の面影を残していた頃です。後に創作家としての才能を開花させ、次々と新しい曲（演目）を世に送り出しました。

古の人物が、生きていた頃を思い出しそして語るという「複式夢幻能」という新ジャンルを開発した事でも有名です。また歌論書として「風姿花伝（書）」を世に送り出します。「秘すれば花なり、秘せざるは、花なるべからず。」や「初心、忘るべからず。」という言葉も、その中に出てきます。

猿楽を能と呼ばれる芸術の域にまで高め、学問的な研鑽けんさんに努めた功労者でしたが、やがて無実の罪を着せられたのか、晩年は流罪になったとも左遷されたとも言われ、悲しき謎の多い後半生を送りました。

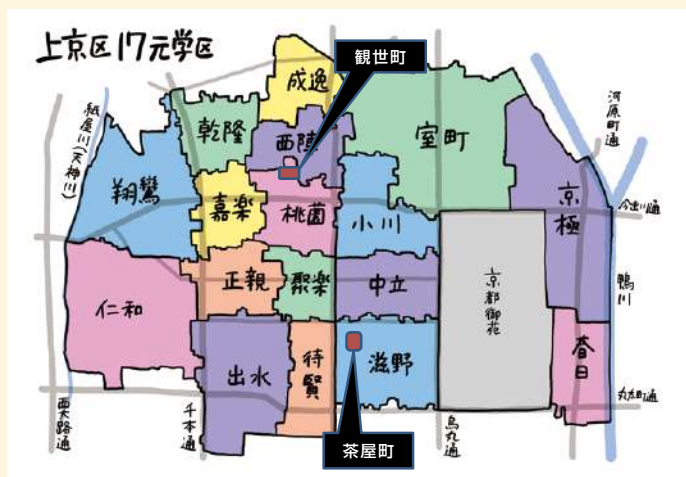
■観世座（結崎座）四世 元重 もとしげ

（音阿弥）

父は世阿弥の弟、四郎。世阿弥の甥にあたります。出家後「音阿弥」と称しました。

若い頃は、観阿弥や世阿弥ら一族と共に行動を共にしていましたが、やがて六代将軍、足利義教よしなりの眼に止まつてからは、次第に独立色を強めていきました。当時の観世大夫である元雅もとまさが死去すると、義教の力もあつて、観世大夫の地

今回紙面登場の町名 エリアを確認



画像協力：上京区役所

位につきました。その芸風は、スケールが大きく、また所作などの技にも工夫があつたとされ、そういつた奇抜さが義教の氣に入つた理由であつたとされています。嘉吉の変で、義教という庇護者を失つた後も、他の座と協力して切り抜けました。「機を見るに敏」な、世渡りが上手であつたイメージです。

上京の埋蔵文化財

— 文化庁移転にともなう
発掘調査でみえた町家のすがた —

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 加藤 雄太

はじめに

この発掘調査は、平成30（2018）年冬から令和2（2020）年春まで、文化庁移転にともなうて京都府庁内にて公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターが実施しました。当地は新町通に面した旧京都府警察本部の北側にあたり、平安時代から府庁時代までの多くの遺構と遺物が見つかりました。今回はこの調査で見つかった近世の遺構と遺物について説明いたします。

調査地の歴史

この地は、平安京では左京一

条三坊三町と近衛大路にあたります。平安時代から現在に至るまで多様な人々が集住しておりましたが、応仁元（1467）年から約11年に及んだ応仁の乱以降、防御施設として道路側溝や路面を分断する巨大な堀が掘削されます。その後、役割を終えた堀は埋め立てられ、安土桃山時代以降、町人の集住する町家空間が再び形成されます。江戸時代を通して町家は幾度もの火災を経験し、そのたびに復興していきますが、嘉永の大火（1854年）の被害にあった当地は文久2（1862）年から京都守護職の上屋敷建設が進められ

ます。これが現在の京都府庁の範囲の原型になります。

調査の概要

発掘調査は、幕末の京都守護職の遺構面を明らかにするところから開始しました。幕末から順次記録を取りながら掘り下げていくと、天明の大火（1788年）から復興して、嘉永の大火（1854年）で罹災するまでの期間の良好な町家の遺構が見つかりました。

この調査地の北側には出水通り、東側に新町通りがあります。町家の多くは新町通りに面した東西に細長い土地に建てられ、そこから様々な遺構が見つかります。

まずは生活に使う水を汲み取る石組みの井戸、そしてこの水を排水する漆喰遺構です。漆喰遺構の傾斜する方向から、町家の出入り口に面する通りに水を流していたことがわかります。写真の石組みの溝の上半分に黄色い漆喰の構造物が写っていますが、この漆喰遺



〒602-8469 京都府京都市上京区中筋通浄福寺西入中宮町 300
TEL.075-441-0753 URL: <https://www.nishijin-uoshin.co.jp/>

新・古茶道美術品

清昌堂
やました

京都本店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル
〒602-0061 TEL (075) 431-1366
FAX (075) 431-1370

<https://seishodo.com/>
お気軽にお問い合わせください



漆喰溝



道路側溝と漆喰溝



かまどと土師質の壺

構が町家に付随する遺構で、石組みの溝は出水通りの南側道路側溝です。路面は幾度も修築された痕が確認でき、互層状に重なり合っていることから、近世を通じて「通り」はきちんと使用できるように維持管理されてきたことがうかがえます。

漆喰遺構は本来暗渠^{あんま}で、住人が歩く土間や通路に埋設されていたようです。暗渠は設置したい形に地面を掘削し、その中に漆喰を流し込み凹形の断面になるように製造します。漆喰溝の上には溝を覆うように河原石を並べ、漆喰を接着剤として利用して石を溝と固定し、溝を塞いでしまえます。しか

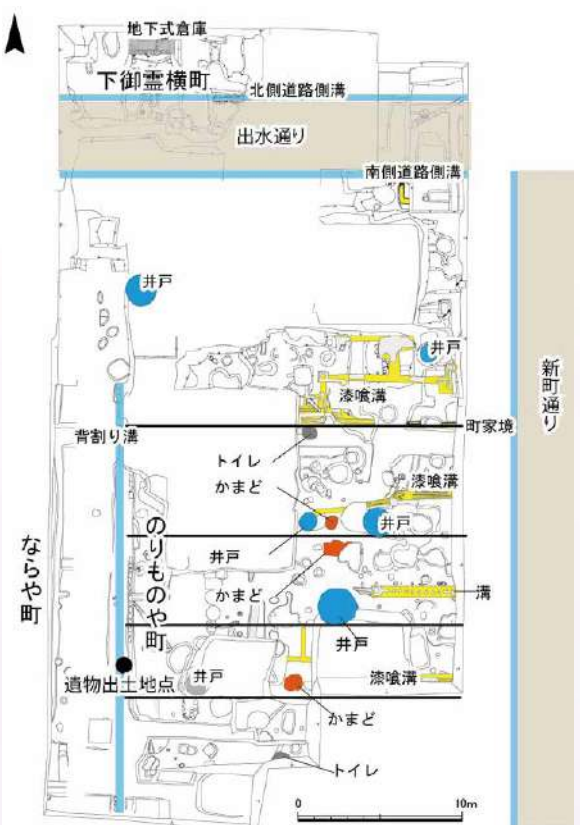
し、このままでは凸凹していて不便だったのでしよう、暗渠は土中に埋めてしまい丁寧に突き固めて土間や通路の下に隠してしまえます。ちなみにこの暗渠ですが、曲がり角などの一定の間隔に木蓋で塞いだマンホール状の開口部が設置されており、ここから溜まった泥やごみを取り除いたと考えられます。

この調査で見つかった井戸のほとんどは石組みで地下水の得られるとても深いところまで掘られています。しかし、一部の井戸状の遺構は石組みではありませんが、1m程の浅いものがありました。この遺構はかまどの近くに設けら

れ、排水用の暗渠から水が流れ込むように設置されていることから、水を貯めておく役割を担っていたと考えられます。天明の大火後の復興で建てられた町家ですから、火事を意識して、防火水槽として設置し、生活排水を貯めていたのかもしれませんが。

また、このほかにも、かまどの跡が3か所見つかっており、これに隣接する位置に井戸が出てきています。煮炊きをするかまどの隣

に生活用水を確保する井戸が位置するのは、炊事を行う上で便利だったのでしょう。かまどはいずれも黄色の粘土で構築されています。一連のものから三連のかまどがみつかります。かまどの内側は赤く、火を受けていた痕跡があったため、日常的に火をおこしていたことが分かります。そして、三連のかまどの燃焼部から、土師質^{はじ}の壺が見つかりました。この壺は近世の町家の土間などにしばし



近世後期の町家復元

ば埋められている壺で、本調査でもこれ以外にも町家の土間に埋められているのを確認しています。いわゆる胞衣壺^{えいな}と呼び、子供の成長を願う親が気持ちを込めて、胎児が生まれたのちに排出される胎盤を納めて埋納します。多くの家の下に埋められた壺は胞衣壺として埋められたのだと考えられますが、かまどの中から出てきた壺は、同じ形の壺ですが、出土した状況から火消し壺などの用途で用いられていたのかもしれない。

このほか大きな甕^{かめ}が埋められている遺構が3基見つかっています。これはいわゆるトイレで、ここで貯めた尿^{しにょう}を郊外の農家に回収してもらい畑などの肥料として再利用していたようです。

新町通りに面する町家の裏手の境は石組みの幅広の溝によって区画されています。絵図によれば新町通りの町家を「のりものや町」、石組み溝の西側を「ならや町」と呼んでいたようです。家々の裏手

からは突き固めた土間状の痕跡や漆喰遺構などは確認できず、空閑地や庭などとして利用していたと考えられます。この一帯からはいくつか廃棄土坑^{どこう}が見つかっており、江戸時代前期でもみられたような不用品を廃棄する空間でもあったようです。そして、この裏手のごみ捨て穴からとても貴重な資料が出土しています。

発見した遺物と歴史的意義

近世後期の京都の町家からは多様な遺物が出土しています。今回の発掘調査でも、多様な遺物が出土しましたが、その中でも「光格菊御紋付染付碗」は特異な遺物です。この碗

は肥前で生

産された磁

器製品で透

明感のある

白い磁胎に

呉須^{こす}で文様

が描かれて



光格菊御紋付染付碗

います。内面には光格菊御紋と雲立涌を交互に三方に描き、外面には梅花唐草を描いています。いわゆる禁裏御用品（注文品）と称される製品で朝廷からの注文で生産されました。毎月まとまった量を

禁裏に運び込み、天皇や皇族が使用する禁裏御用品ですが、これらの製品は一か月しか使用できず、それ以降は公家衆や女官、出入りの商人らに下賜^かされていたようです。出土した「光格菊御紋付染付碗」は、光格菊が配されておりま

すので、光格天皇がご使用になられた品がゆかりのある人物の手に渡り、今回の調査地の住人の手に渡ったものと考えられます。禁裏御用品の出土は全国的にも非常にまれで、京都市内におきましても、その多くは御所とその周辺の公家邸宅跡などに限られます。このような特殊な遺物が出土した経緯は発掘調査からはわかりませんが、この碗のほかにも周辺遺構から中国製の急須や仁清焼、尾形周平の

杯などの資料が出土しており、調査地域に居住していた町家の住人の特殊性がうかがえそうです。

これまで上京の近世後期の町家の調査はあまり事例がありませんでしたが、本調査におきまして良好な状態で建物の様々な施設や貴重な遺物がみつかりました。このような調査事例の地道な積み重ねにより、京都の町家の状況が少しずつではありますが明らかにしつつあります。

「ヨキモノ」を創る



京菓匠 鶴屋吉信

京名物 柚餅

http://www.tsuruyayoshinobu.jp

ぶとり上京

『源氏物語』ゆかりの地（葵巻）

―賀茂祭の様子をたどりながら―

同志社女子大学嘱託講師 飯塚ひろみ

令和五年五月、コロナ禍で中止されていた葵祭（賀茂祭）の「路頭の儀」が四年ぶりに実施され、晴れやかな空のもとに美しい行列を見ることができました。

平安時代の賀茂祭は現在のように日にちが固定されていたのではなく、旧暦四月の中の酉の日（月のうち二番目に巡ってくる「酉」の日）に行われ、行列の通行ルートも異なっていました。人々もこの祭りを楽しみにしていたようで、『源氏物語』や『栄花物語』にもその様子が語られています。当時の賀茂祭の様子をたどってみましょう。

○斎院御禊の日の車争い

『源氏物語』に賀茂祭に関わる描写は何か所かありますが、中で

も有名なのは葵巻における葵の上と六条御息所の車争いでしよう。ただし、この車争いは賀茂祭の当日ではなく、数日前に行われる斎院御禊の日（斎院が鴨川で禊をする日）の出来事です。斎院とは、

天皇の御代を守るために賀茂社に奉仕した女性のことで、同様に伊勢神宮に奉仕した女性を斎宮と称しました。ともに未婚の内親王または女王から選ばれ、御代替わりや自身の病氣、あるいは身内の死去などがあると交替しました。葵巻に描かれるのは、朱雀帝の即位により新たに定まった斎院（桐壺院の第三皇女、朱雀帝の同腹のきょうだい）の御禊の様子です。場面を見てみましょう。

御禊の日、上達部など数定まり

て仕うまつりたまふわざなれど、おほえことに容貌あるかぎり、下襲の色、表袴の紋、馬、鞍までみなとのへたり、とりわきたる宣旨にて大将の君も仕うまつりたまふ。かねてより物見車心づかひしけり。一条の大路所なくむくつけきまで騒ぎたり。所どころの御棧敷、心々にし尽くしたるしつらひ、人の袖口さへいみじき見物なり。（『源氏物語』葵巻）

帝の特別な命により大将の君（光源氏）が斎院御禊の列に加わったとあります。続く本文には「あやしき山がつさへ見たてまつらんとす」「遠き国々より妻子をひき具しつとも参で来」とあり、光源氏見たさに我も我もと人々が遠方から押し寄せていることが語られています。

スーパースター光源氏を夫に持つ葵の上は、自身はそれほど積極的ではないものの、周囲の勧めで御禊の見物に出かけることになりました。その場所是一条大路、すなわち現在的一条通りに当たります。



<https://reizeike.jp>



公益財団法人

冷泉家時雨亭文庫



心しづめの宮

御霊神社

（上御霊神社）

毎月18日 さえずり市（5月を除く）

上京区上御霊前通烏丸東入

電話075-441-2260

詳しい地点は書かれていませんが、葵の上が到着した時にはすでに隙間もないほどに見物の車が並んでいました。けれども、権力のある左大臣家の姫君の見物とあって、従者は次々と周辺の車を立ち退かせます。その中に、光源氏の（疎遠になっていた）恋人である六条御息所みよすところの車もあったのです。光源氏の姿を見れば少しは心も晴れるかと、こっそりと出かけて来ていたのです。結局、御息所の車は酒に酔った従者たちによって後ろに追いやられ、御禊の列にいる光源氏もそれに気づかずに通り過ぎてしまいました。このことが後の葵の上の死につながってしまいます。

○紫野にあった賀茂斎院

葵巻に描かれた斎院はこの後父である桐壺院の崩御にともない退下し、替わりに光源氏の従姉妹に当たる朝顔の姫君が斎院となります（賢木巻）。朝顔の斎院も父である式部卿宮しきぶきょうのみやの薨去こうきょによって退下します（朝顔巻）。その後の斎院にどのような人になったのかは物

語に明記されないものの、このように『源氏物語』には少なくとも三回の斎院交替が認められます。しかし、歴史上では、『源氏物語』が書かれていた頃は長期間にわたって斎院の交替がなく、村上天皇の第十皇女である選子内親王が円融・花山・一条・三条・後一条天皇の五代にわたって五十七年間も斎院を務めました。『紫式部日記』には斎院に関する次のような記述があります。

（斎院は）ただいとをかしう、よしよしうおはすべかめる所のやうなり。さぶらふ人をくらべていどまむには、この見たまふるわたりの人に、かならずしもかれはまさらじを、つねに入りたちて見る人もなし、をかしき夕月夜、ゆゑある有明、花のたより、ほととぎすのたづねどころにまゐりたれば、院はいと心のゆゑおはして、所のさまはいと世はなれ、かんさびたり。『紫式部日記』

斎院はとても風流なところのようだが、仕えている女房たちを比



賀茂斎院跡
画像協力：櫛谷七野神社

べて競うならば、私が仕えている辺り（中宮方）の人たちに必ずしもあちら（斎院方）が勝ることはないとしながらも、風情ある夜や有明、花やほととぎすを楽しむ場所として出かけてみると、斎院（選子内親王）はとても情趣のあるお方であり、その御所はとても浮世離れして神々しいと、紫式部は称賛しています。斎院が暮らす御所も斎院と呼ばれ、平安京の北の紫野にありました。その跡地とされているのが現在の上京区にある櫛谷七野神社（大宮通盧山寺上る）であり、社内に「賀茂斎院跡」の石碑と説明版があります。

○光源氏の見物場所 道長も行成も祭当日のことも『源氏物語』には描かれています。祭当日には光源氏は行列に加わることなく、紫



京都御所西
護王神社
〒602-8011 京都市上京区烏丸通下長者町下ル
(地下鉄丸太町駅下車北へ7分)
<http://www.gooujinja.or.jp/> 電話 441-5458

足腰の守護神



歴史文字シリーズ



伝達浪漫

紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

和光印刷株式会社
〒602-0012 京都・烏丸通上御雲前上ル TEL.075-441-5408代
E-mail:info@wako-print.co.jp

の上とともに見物に出かけました。

今日も所なく立ちにけり。馬場むまばの

殿のほどに立てわづらひて、「上達部の車ども多くて、もの騒がしげなるわたりかな」とやすら

ひたまふに（『源氏物語』葵巻）

光源氏は馬場殿の辺りに車を止めようとしています。当時は一条大路の北に左近の馬場と右近の馬場がありましたが、ここでは左近の馬場の馬場殿と考えられ、その位置はおおよそ一条西洞院辺りと

されています。すでに車は立て込んでおり、自分の車を止めるところがなく困っている光源氏の様子が記されています。幸いにして光源氏は知り合いの女官である源典侍に場所を譲ってもらうことになりました。この場所について

本文には「所もげによきわたりなれば」（場所も本当に良い辺りであるから）とあり、人気の見物場所であったことがわかります。

当時の貴族の日記にも一条大路での見物のことが書かれています。「一條馬場立（馬場）前見物如例」（藤原行成、『権記』長保五（一〇〇三）

年四月十四日条）、「於一條大納言

殿北門見物」（同、寛弘元（一〇〇四）年四月二十日条）、「渡春宮

大夫一條見物」（藤原道長、『御堂関白記』同年四月二十日条）といった例です。当時の賀茂祭は、一条

大路の北の紫野から出発する斎院の列と、一条大路の南の内裏から出発する勅使の列とが合流する一条大路が恰好の見物場所だったのです。

一条大路には見物のための棧敷も多く設けられていました。『源氏物語』の葵巻の御禊の場面には後に斎院となる朝顔の姫君が父の式部卿宮とともに棧敷で見物している様子が記されていますし、『栄花物語』には藤原道長の棧敷のことが書かれています。

殿は、一条の御棧敷の屋長々と造らせたまひて、檜皮葺、高欄などいみじうをかしうせさせたまひて、この年ごろ御禊よりはじめ、祭を殿も上も渡らせたまひて御覧するに、今年（今年）は使の君の御事を、世の中揺（ゆ）りていそがせたまふ。（『栄花物語』巻第八

はつはな）

道長は妻の源倫子とともに一条

大路に作った豪華な棧敷でたびたび賀茂祭を見物したようで、道長の日記である『御堂関白記』にも

棧敷で見物したという記事がいくつか見受けられます。特に寛弘八（一〇一一）年四月十八日条には、「若宮・三宮・尚侍同道御一条棧敷室、巳午時許上達部等参会」とあり、道長の孫である敦成親王（若宮・敦良親王（三宮）、次女の藤原妍子（尚侍）のほか大勢の上達部（公卿）が棧敷に集まったことがわかります。

○里内裏一条院と『源氏物語』
先に斎院の列が紫野から出発することを述べましたが、この通行ルートに関して注目したい記事があります。

藤原行成の『権記』長保二（一〇〇〇）年四月十一日条（御禊の日）に「斎院供奉者於大宮路下馬、至堀川橋東、更騎馬」（斎院に供奉する者は（一条の）大宮大路で馬を降り、堀川の橋の東で再び馬に

乗ります）とあり、斎院の行列が紫野から出発するルートと一致していることがわかります。

御神忌 千禧二十五
半萬燈祭
本堂へつなぐ城の心
9999[2027]

全国天満宮総本社

北野天満宮

学業成就

災難厄除



アクセス 市バス「北野天満宮前」下車すぐ
住所 京都市上京区馬喰町
電話 (075) 461-0005

乗った」と記されています。現在の地理で言えば、一条通と大宮通が交差する地点で馬を降り、そこから**晴明神社**のある晴明町の南から堀川通にかけて下馬のまま通行し、一条戻橋を渡ったところで再び馬に乗ったこととなります。なぜこのようなことがなされたのでしょうか。理由は、そこが天皇の居所のすぐそばだったからです。

紫野の斎院を出た列は大宮大路を南下し一条大宮から進路を東に取るのですが、一条大宮の南東には一条天皇が里内裏としていた**一条院**がありました。平安京の本来の内裏は現在の千本丸太町の北東にありましたが、火災によりたびたび焼失していました。そういった時に天皇の居所として使用されるのが里内裏です。一条院はもともと藤原詮子（藤原道長の姉で一条天皇の母）が使っていた建物で、長保元（九九九）年六月の内裏焼亡の際に一条天皇の里内裏とされました。以来、一条天皇は在位期間の多くをこの場所で過ごしました。現在の一条通の南、大宮通と

旧大宮通の間にある**名和児童公園**（大宮通一条下る）に「**一条院跡**」の説明版が設置されています。

一条天皇の中宮である藤原彰子に仕えた紫式部も同様に一条院で過ごしています。寛弘五（一〇〇八）年七月、彰子は出産のために実家である**土御門殿**（現在の京都御苑内）に里下がりをし、九月に無事に一条天皇の皇子（敦成親王）を出産します。そして十一月に一条院に還りますが、この時に『源氏物語』の一部が冊子として新たに整えられ、一条天皇に献上されたことから、一条院は土御門殿とともに『源氏物語』のふるさととも言えるでしょう。

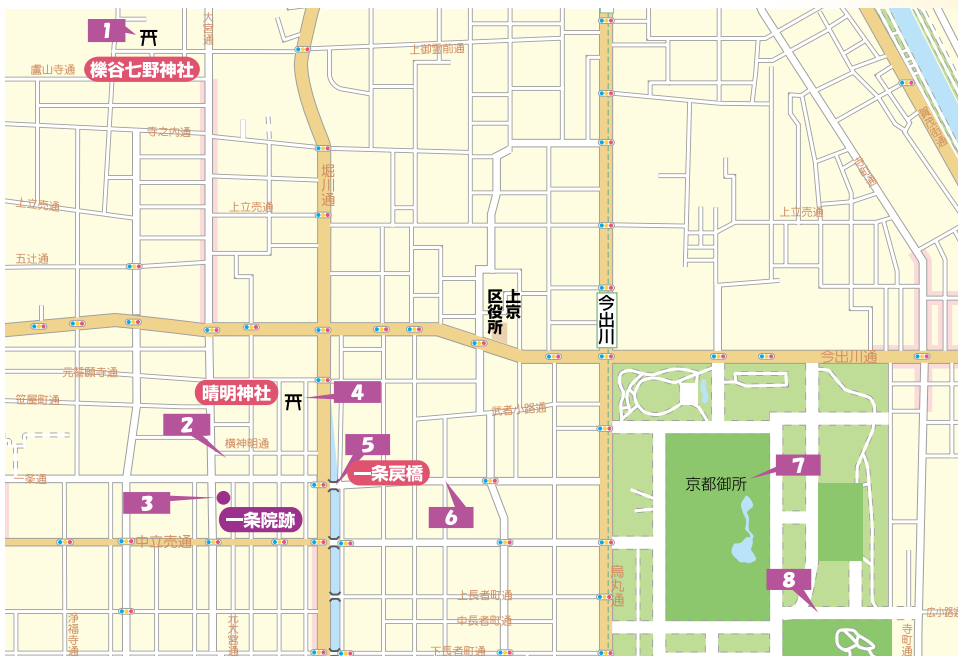
賀茂祭に関する記述をもとにゆかりの地を紹介してきました。整理しつつお散歩コースを示してみよう。

1 賀茂斎院跡（櫛谷七野神社、大宮通盧山寺上る）から大宮通を南に、**2 平安京一条大路跡**の説明版（大宮通一条東入る）を見て大宮

通をさらに南に、**3 一条院跡**（名和児童公園、大宮通一条下る）から旧大宮通に出て北へ、一条通にもどります。一条通を東へ、平安時代に活躍した陰陽師安倍晴明ゆかりの**4 晴明神社**（堀川通一条上る）に立ち寄り、**5 一条戻橋**（堀川通一条東入る）から東へ、

内仙洞御所北）で『源氏物語』の執筆に思いを馳せる。そんなひとときを過ごしてみてはいかがでしょうか。

6 左近の馬場殿のあった辺り（西洞院通一条）で往時の賑わいを想像しつつ、さらに東の京都御苑まで。御苑内にある**7 京都御所**も平安時代的一条大路に重なりますから、紫宸殿や清涼殿を見て平安の世を偲び、**8 土御門殿跡**（京都御苑



— 文化庁京都移転記念 —

第57回 上京薪能

上京区文化振興会及び上京区役所では、豊かな歴史に育まれた伝統文化を継承し、発展させることを目指して、昭和40年から「上京薪能」を開催しており、57回目となる今回は文化庁京都移転を記念とし、華やかな演目を予定しています。

かがり火に照らされた幽玄な世界をお楽しみください。御来場をお待ちしております。

日時 令和5年9月21日(木)

第一部開演: 午後4時(午後3時30分開場)

第二部開演: 午後6時(終演予定 午後8時30分)

場所 白峯神宮(上京区今出川通堀川東入北側)

※雨天の場合: 金剛能楽堂(上京区烏丸通中立売上ル)

入場料 前売券 2,500円、当日券 3,000円

※前売券は、8月21日(月)から、上京区役所地域力推進室(1階1番窓口)と白峯神宮にて販売。

主催 上京区文化振興会・上京区役所

協力 白峯神宮

問合せ先 京都いつでもコール ☎075-661-3755

※お掛け間違いに御注意ください。



オンラインからも
購入できます。

上京茶会

秋の「上京茶会」を11月5日に大本山妙蓮寺にて裏千家の懸釜で開催します。深まる秋の澄んだ空気のもと、一碗のお茶を楽しみ、こころ豊かなひと時をお過ごしください。

日時 令和5年11月5日(日)

※30分ごとの時間指定制

場所 大本山 妙蓮寺
(上京区寺之内通大宮東入ル)

お茶券 2,000円

※9月25日(月)から、上京区役所地域力推進室(1階1番窓口)にて販売。

主催

上京区文化振興会・上京区役所

問合せ先

上京区役所地域力推進室

まちづくり推進担当

☎075-441-5040



オンラインからも
購入できます。

表紙

題字/吉川蕉仙氏

写真/西陣・千両が辻 京町家:朝顔<撮影:写真家 水野克比古氏>

京都の歴史や文化の象徴である京町家。伝統的な木造家屋は、見た目の京都らしさだけでなく、四季の移り変わりを楽しむことができるのも魅力です。

※朝顔については撮影時のものであり、常に咲いているものではありませんので御了承いただきますようお願いいたします。

永年にわたって当冊子の執筆に尽力されました福井和雄氏が、本年五月御逝去されました。ここに、謹んで哀悼の意を表します。

元祖

畑かき

ぼたん鍋と京料理



京・上御霊前烏丸西
☎075・441・0610(代)

虎
どらや



www.toraya-group.co.jp

京都に生まれて五世紀

売買や相続、建築・リフォーム、残置処分にいたるまで

住まいにまつわるお困りごとはお任せください。

寺社仏閣の借地管理等で培った豊富な経験でお手伝いいたします。



いにしえの町を、想う。

玄武管財

602-0898 京都市上京区相国寺門前町647番地1

TEL 075-411-1214

info@kyoto-genbu.co.jp

http://kyoto-genbu.co.jp/



「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。
また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。



- 神学部
- 文学部
- 社会学部
- 法学部
- 経済学部
- 商学部
- 政策学部
- 文化情報学部
- 理工学部
- 生命医科学部
- スポーツ健康学部
- 心理学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- グローバル地域文化学部



同志社大学
Doshisha University
https://www.doshisha.ac.jp



お問合せ先 同志社大学 広報部 広報課 TEL : (075) 251-3120



京都人さえもが恋するホテル。



BRIGHTON
HOTELS

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411 (代) FAX.075-431-2360
https://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/

(東洞院通)
大丸さん北隣のよろず屋 四条店では

時計・貴金属
高価買取実施中!

鑑定書なしでも高額査定!

グループ創業70年の信用と安心

ブランド品 販売・買取 (株)よろず屋

京都府公安委員会許可 古物商 第11061号

ATF全国貴金属
ブランド品協会 認定店

本 店 地下鉄「今出川駅(6番出口)」隣 ☎0120-25-0700
☎10:00~19:00 [土曜は18:00迄] 日曜・祝日 日10台有

四条店 地下鉄「四条駅(20番出口)」すぐ ☎075-241-7900
☎10:00~19:00 大丸京都店 北隣(東洞院通) 年中無休

●FGA(英国宝石学協会)認定資格者がおります。●公共機関の鑑定士もつとめています。

「たのんでよかった!」

皆様のそのひとことを目指した
住まいづくりを心がけております。



西陣の大工さん
みずほ工務店

TEL.075-204-8283

http://www.mizuho-koumu.com

京都市上京区上立売通浄福寺西入上る真倉町752

本田味噌本店
京都市上京区堂町通一茶五八



西京白味噌®

<http://www.honda-miso.co.jp>



山田松香木店
香木・薬種・薫香

〒602-8014
京都市上京区勘解由小路町164
(金町通下五上上ル)
TEL(075)441-4694
FAX(075)441-1124



MALEBRANCHE
京都 北山

洋菓子

マールブランシュ 京都 北山本店

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北山門前
TEL (075)722-3399・FAX (075)702-9440
9:00AM-5:30PM 年中無休 (喫茶10:00AM-5:30PM)
www.malebranche.co.jp

商品予約専用フリーダイヤル ☎ 0120-668-399

単なるデリバリーカンパニーでなく、
人や企業の信頼を結ぶ**運送会社**です
どんな内容もまずご相談を!

商品のお預かりから梱包作業、配送まで

封入作業・ダイレクトメール(DM)配送・郵便出荷代行

機密書類の溶解処理

ルート配送・チャーター便(軽貨物～4t車まで)

引越サービス



近運貨二第186号(社)京都府トラック協会会員

株式会社 デリバリーサービス

〒604-0907 京都市中京区河原町通竹屋町上ル大文字町238番地

TEL(075)662-8255 / FAX(075)662-8257
<https://delivery-service.jp/>

